

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>・一人一人の尊厳を大事にし住み慣れた地域で、安全で安心した暮らしができることを理念におき、職員全員で共通認識している。</p>		<p>・一人ひとりを、大事にすることは、一人ひとりを良く知り、一人ひとりのニーズを把握するよう、担当の職員は常に意識して取り組んでいる。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>・職員採用時には必ず理念を伝えている。 ・理念を共通認識し、方針が一つであることを日常会話の中で話している。</p>	○	<p>・ケアカンファレンスには、入居者中心であることを常に意識して話し合っている。 ・地域との交流を出来ることから始めているが今後は、自治会、老人会、婦人会などの関わりを増やしていく。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>・ご家族には、”ここにこ便り” (ホーム便り)を2ヶ月に一回地域推進会議にあわせて作成し、会議の中で伝えている。 ・地域との交流を増やし伝えてあげたい。</p>	○	<p>・災害時に協力してもらえるよう近隣、スーパー、派出所、給油所など利用者で訪問した。 ・地域との交流を具体的に計画して地域活動に参加していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>・近隣の散歩時には、挨拶を気持ちよく行っている。</p>	○	<p>・バザー等を行い近隣の方に気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りしたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>・天気の良い日は、散歩コースのゴミ拾い、草刈りを積極的に行った結果声をかけられる事が多くなった。</p>	○	<p>・地域活動に積極的に参加していきたい。 ・地域活動の情報を収集し、参加できるように計画を立て、実施していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・散歩コースの草刈り、ゴミ拾いを入居者も一緒に行っている。	○	・介護の勉強会を計画し、自治会などに呼びかけたい。 ・事業所近くの通学路の立哨の計画をしている。子供たちとの触れ合いを通して地域に貢献していることの実感を味わってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・サービス評価の意義やねらいについて、勉強会を行い職員全員で取り組めるよう計画を立て行った。	○	・今回はじめての外部評価であったが、計画通りにスムーズにできなかったことを反省し、次回に活かしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ホームでの現状報告、活動報告、ヒヤリハット、事故報告などを行い検討している。	○	・だされた意見をひとつひとつ実施できるようにしていきたい。 ・サービス評価の結果を報告し、意見をもらいサービスの向上に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・入居者がホームを利用する以前に、担当だった市職員に必要な情報や本人に関わってもらい問題行動を一緒に考えて行った結果解決につながった。	○	・市職員と利用者の交流を図りつつ、今後も市職員との関係作りを積極的に行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・市職員との関わりの中で成年後見が必要なケースがあり市職員、家族、ホーム職員が連携をとり支援することができた。このケースを通して職員もいい勉強ができた。	○	・研修への参加を強化していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止関連法について研修に参加し勉強会(報告会)をおこなった。 ・日常生活の関わりの中でも常に利用者の状態の変化に気づき早急な対応に周知徹底している。	○	・高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を実施し、高齢者の尊厳に向けた取り組みを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時には、時間をとり丁寧に説明している。</p> <p>・医療連携体制加算についても十分に説明し重度化、見取りについては、同意を得るようにしている。</p> <p>・利用者の状態変化により契約解除になる場合は家族等、包括支援センターを交えて十分に説明し対応策を相談している。</p>	<p>○</p> <p>今後も丁寧な説明と疑問等があれば引き出しそのことに対しても十分な説明を行うことを継続していく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・入居者との関わりを蜜にして、信頼関係を築くことでその人の思いや何をして欲しいのかを察知できるように努力している。</p> <p>・入居者の方の不安や意見は職員全員で検討し、早めの対応が出来るようにしていく。</p>	<p>○</p> <p>・介護相談員の派遣を検討していく。</p> <p>・入居者の方が意見や思いを気軽に言える雰囲気作りに努める。そのためにも日頃からのこmを大事に信頼関係を構築していく</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・2ヶ月ごとにホーム便りを発行し、ホームでのエピソード、行事などを知らせている。</p> <p>・家族の来訪時には、気軽に声をかけ、本人の状態や状況を伝えるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>・今後もホーム便り作成を継続していく。</p> <p>・家族とのコミュニケーションも大事にし信頼関係を作っていくことで互いが気軽に声かけができる雰囲気作りをしていきたい</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・意見箱を設置しているがあまり活用されていない。</p> <p>・家族会を定期的に運営していないので、大きな課題である。</p>	<p>○</p> <p>・家族会を定期的に運営していきたい。家族が中心になり家族で運営していく体制作りをしていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・日頃から職員とのコミュニケーションをとるように心がけ、問いかけたり聞きだしたりするようにしている。</p> <p>・ミーティングで意見の言いやすい雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>○</p> <p>・現場の意見に常に耳を傾け、いつでも話し合える場ができるようにしていく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・日中入居者のケアが行き届くよう職員配置を考えている。(日勤帯で時間差はあるが4~5人体制にしている)</p> <p>・夜勤帯もローテーションを組んで行っている。</p>	<p>○</p> <p>・現場の職員は、利用者の状態や職員の急な休みが出たとき柔軟な勤務体制がとれるよう心がけている。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・入居者、家族の信頼関係や職員が退職することで入居者の方への不安を軽減しなくては、ならない。そのためにも、職員間のコミュニケーションは大切にしている。退職、異動となった場合は、時期的なことや引継ぎの面で最善の努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>・入居者の方へ十分に説明をし、しっかりと対応できるようにしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人の勉強会、年に一度の研究発表会には、積極的に参加している。 ・法人のサービス向上委員会、安全対策委員会、教育委員会にも担当を決め持ち回りで参加している。	○ ・ホーム独自の勉強会を定期的開催したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・沖縄県グループホーム協会に加入しているので、施設見学会や研修に参加し、報告会を行っている。	○ ・他グループホームとの交流を積極的に行い交換研修や勉強会を計画、実施していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・日常会話を通して職員のストレスや悩みを把握するようにしている。 ・月一回、職員の慰労会を行っている。	○ ・職員が休憩時間をとれる工夫をしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・年に1度の登用試験を実施している。	○ ・今後は人事考課を検討していく。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・体験入所をしていただき、ホームの雰囲気、職員との触れ合い、食事の状況等を体験してもらい、不安を軽減していただいている。 ・相談があった際には、本人に会って生活状態や身体状況を把握し、本人が求めている事や不安なこと等を聞いて職員間で情報を共有し、スムーズな関係作りに努めている。	○ ・体験入所や事前のホーム見学は、家族・利用者本人には、とても大切なことだと考えている。1日も早く環境に慣れ信頼関係を築いていくためにも継続して行っていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談があった際、ホームの雰囲気、職員の様子等見学を薦め不安の軽減に努めている。また、これまでの経緯について話を聞き、これからの希望や不安などの話し合いを行っている。	○ ・ホームの雰囲気、職員の印象などは、とても大切に気になる面だと考えている。納得していただき、様々な話を聞かせていただきながら、信頼関係を築いていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ホームの見学をしていただき、本人、家族より現状を聴き、今必要な各サービスの情報提供や、包括センターでの相談を進めている。		・これからも気軽に相談に応じていけるよう努力していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホーム見学や体験入所を薦め、事前にホームの様子を見ていただき、また職員との関わりを持っていただき、不安感を与えないよう努めている。 ・入所時には、馴染みの家具や写真を持ち込んでもらう等、本人が安心できる環境を作りに必要な物がないか家族へ声かけし、協力を得て実行している。		・今後も継続して行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・衣食住を共にする同士として、一緒に取り組む場面を心がけている。多少に関わらず役割のある生活に留意している。 ・食事作り、野菜選びなど、教えていただく場面あり。その際、感謝の言葉を伝える様にしている。		・尊厳を大事に関わる事を常に意識しているがその中で色々な事を教えてもらう場面も多く感謝の気持ちを忘れないように心掛けている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ほとんどの方が一ヶ月に一度病院受診しており、その際利用者の近況報告をおこなったり心配事・要望などを聞きコミュニケーションを図っている。 ・面会時には、本人・家族を交え職員も一緒にコミュニケーションを図っている。		・今後も継続して行っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・行事に家族を誘い、一緒に時間を過ごしていただき、より良い関係を築いていけるように努めている。 ・家族へ日常の様子をまめに連絡したり、いつでも気軽に来所していただく様に声かけしている。	○	・できるだけ家族が気軽に、ホームへ足を運んでもらう工夫を全職員で考えて実施していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・最近、定期的に友人の来訪があり、「いつでも来てください」と、声かけを行っている。また、知人からの電話があった際には、取次ぎを行っている。	○	・本人の経歴やこれまでやってこられたことを探りこれからの生活に活かせるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士の関係性の把握行い、安全に関わりあえる様、職員全員が情報共有し見守り支援を行っている。 ・毎朝定刻の時間帯に体操を設けており、出来る限り入居者全員が顔を合わせられ、楽しく過ごせる場をもちコミュニケーションを図れるよう支援している。		・部屋に閉じこもらないよう、意識して声かけしている。 ・日中は、殆どの方がリビングにて過ごしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・今までに一人の入居者の退所があったが、家族や本人から今後の関わりの必要性を求められておらず、その後の連絡等は当ホームより行った。	○	・継続的なつきあいができるような関わり(行事などへの呼びかけや家族の相談に乗るなど)ができるように心がける。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・常に入居者とのコミュニケーションを図り、言葉や表現、動作などから求めていることを読み取り、家族へ伝え意見を出し合い支援している。		・家族との意見交換も今まで通り行っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人から過去の具体的な情報を会話からさり気なく聞いたり、また家族から情報提供してもらうなど、生活歴の把握を行っている。		・職員一人一人が情報を得た時には、話し合いをし、把握に努めたい。 ・得た情報は、センター方式を使用してプランにのせていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの生活のリズムを把握し、出来ること、分かることを生活の中で発見し全体の把握に努めている。		・生活のリズムを崩さず、出来ること、わかる力を発見し把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人が買い物をしたいという思いを家族に伝え、意見を反映し実行、支援している。必要な支援を盛り込んだ個別的な具体的な介護計画がある。	○	・家族と意見交換し、実施、支援していきたい。 ・本人のことをよりよく知る為に、本人の情報をセンター方式を使用し、家族も一緒になってプランを作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の日々の実行チェックを行い毎月モニタリングを実施している。状態の変化が見られた時、職員間で情報交換している。必要性のある場合は、家族へ連絡し要望を取り入れつつ計画、検討見直しをおこなっている。		・状態の変化がみられたとき、職員間で話し合い、状況に合わせたケアを心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアプラン実施チェック表を作成しており、それを主に介護計画の見直し評価を行っている。個人カルテには、本人の言葉・表情をそのまま記入している。食事、排泄、バイタル等の身体状況を把握するファイルを作成し、記入することですべてのチームが確認できるようにしている。	○	・家族、利用者を巻き込んだ見直し、評価を強化していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・医療連携体制加算の導入により、安心した生活を過ごせる様に24時間の健康管理、医療活用強化し、柔軟な支援をしている。		・訪問看護とホームの連絡帳を作成し、共有できている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・2ヶ月に一度の運営推進会議は、実施、継続できており、その際には、地域の方々との意見交換を行っている。 ・当ホーム近辺の派出所やガソリンスタンド、スーパーなどへパンフレットを配布し、地域との接点を見いだした。	○	・利用者と一緒にホーム周辺のマップ作りを行い、関係性を深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・入所者の家族が近隣にて経営している美容室より定期的に訪問サービスを受けている。		・利用者と一緒に他グループホームへの来訪を行い、交流を持った。今後も、継続していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・当ホームのみでは、解決困難な状況に応じて、地域包括センターや市との連携を図り、対応・支援している。		・病院受診困難なケースを包括支援センターに相談を持ちかけ、病院のケースワーカーと医師とのスムーズな連携がとれたので、上手く病院受診につなげられ家族も安心した。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・当ホームには、医療連携体制加算を導入しており、週に一度訪問看護を受けている。その為訪問看護と家族の協力を得ながら、かかりつけ医、医療機関との連携を図り支援している。		・当法人の母体である病院との連携がとれているため、緊急時には、対応ができ職員をはじめ、家族も安心している。

沖縄県(グループホーム 小禄)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>・家族との連携をとり、今後も構築していきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>今後も連携を密にして継続していきたい</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>・今後も継続して行っていく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>・ある利用者家族と4月に終末期に向けた支援の話し合いを持つ予定にしている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>・家族や医療関係者との話し合いを行い、連携をとっていききたい。そのための担当者会議を予定している。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>・住み替えによるダメージが最小になるよう努めている(本人の情報交換など)。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>・記録などの個人情報、所定の場所に保管している。 ・利用者Aさんの情報を周りの確認も行わず、他利用者のいることの配慮をせず申し送っていることがある。</p>	○	<p>・全職員は、常に利用者の尊厳を重視しなければならない。個人情報の取り扱いをする時も周りの確認をし本人の情報は他の利用者が居る場所で安易に名前をだしたりしてはならない(例えばイニシャル等を使う)そのことを周知徹底していく。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>・一人一人にあった声かけを心がけている。少しずつではあるが自己決定できている。</p>	○	<p>・常に利用者の思い、希望を聞き、知ることに努めていきたい。そのためにもセンター方式を使うことで情報収集、細かいアセスメントができるように勉強会を計画していく。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>・買い物や散歩などできるだけ一人一人の思いを配慮するように心がけている。・常に何をしたいか意思確認ができる場面を作っている。あるいは個々に問い掛けるようにしているがうまく引き出せてない。</p>	○	<p>・体調にも配慮しながら、できるだけ本人のペースを崩さず支援していきたい。その人らしさやどう過したいかを知るためのアセスメントや、そのことを引き出すにはどうしたらよいか全職員で考え検討していく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>・新聞広告を見て、化粧品が欲しいと話し購入の手続きを支援し、喜ばれていた事例がある。 ・デパートへの買い物支援をし、気に入った帽子を購入され喜ばれていた。</p>	○	<p>・一人ひとりが自己表現できるようにしていきたい。そのためには一人ひとりを良く知ることからはじめ、その人らしい個性を引き出したい。あせらず利用者のペースにあわせ日々職員の気づきを共有していく、そのための話し合い、勉強会を行う。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> <p>・一人一人のできる力を観察し、知ることに努めて、大小に関わらず食事の準備や後片付けと一緒に支援するように努めている。・利用者と一緒にテーブルを囲み食事をしている。</p>	○	<p>・一人一人の状況(体調、気分)に留意し、何らかの形で全利用者職員と一緒に、準備や後片付けができるようにしたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> <p>・飲酒される利用者は、いないが、たばこを欲しがるとはいる。しかし、疾病との関係で禁煙となっている。</p>		<p>・本人の訴えがあった場合は、家族とも話し合いをし、連携をとり実施していけたらと考えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表で排泄パターンを把握し、時間誘導して排泄を促している。しかし、本人が拒否する場合は、時間をずらしたりして支援している。 ・日中リハパンツから綿パンツに尿とりパットのみの状態へ変更し、排泄パターンを把握して試し期間を設けて取り組んだ。	○	・その日の状態やその時のADL状況に合わせた支援をこれからも心がけたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・清潔が保てていない場合には、さりげなく声かけし、誘導し入浴していただいている。 ・利用者本人から「お風呂に入りたい」と希望されるのは、あまりいないのが現状である。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・歩行時の姿勢が崩れてきたり、ソファで横になっている利用者には、声かけし居室への誘導をして安して休息していただいている。 ・ベットよりも椅子に座ったまま居眠りされるのを好まれる利用者には、安全に留意し見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・散歩・レクリエーション等の楽しみ、気晴らしが出来る環境作り。食事準備・後片づけ、草刈り等の役割を自発的に行えるように、一人一人にあった支援を行っている。		・楽しみや気晴らしと散歩・レクリエーションに参加しやすい環境を作り、取り組んでいる。 ・役割を無理強いせず、一人一人に合った活動を支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・一人一人もっている金額は違うが本人の納得の得られる金額から少額の金額を家族と話し合いで決め所持管理行ってもらっている。大金を所持している方に関しては、金庫を持ち込んでもらい管理している。		・金銭トラブルがあった場合に、家族との話し合い。また、市の職員にも立ち会ってもらい解決方法をカンファレンスし、本人の安心できる環境作りに配慮。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天候や体調の状態をみて、散歩・買い物・ドライブへ出かけられるよう、日常的に支援を行っている。 ・本人が出かけたいときには、出来るだけ本人に合わせた散歩や買い物に出かけられるよう支援している。		・一人一人にあった外出場所、時間帯にあわせ希望に添った外出支援を今後も行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・家族の協力を得ながら、個々の行きたい場所へ出かけられるよう支援を行っている。近辺なら歩いて行き、遠ければ車を使っている。 ・家族を含めた遠足では、水族館まで出かけたこともある。		・遠足など、家族も参加可能な外出支援を続け楽しい場を増やしていく。 ・外食も普段とは、違う食の楽しみを支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自由に電話を私用できるよう、使いやすい場所に置き解放している。 ・自ら電話をかけることができない方も、電話して欲しいと話される方に関して、職員が手伝い支援している。		・電話使用を今のまま、自由に使えるよう解放する。電話の訴えに対し、支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族や馴染みの方が訪問された時には、お茶やお菓子をだし、長時間滞在を気兼ねなく過ごせるよう対応している。また、食事時間での訪問があった場合などでは、一緒に食事を共にすることもある。		・さらに、家族や馴染みの方が気軽に訪問できるよう、コミュニケーションを多くし、居心地よく過ごせるよう工夫していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束の研修への参加、また研修報告及び勉強会を行った。		・身体拘束に関する研修への参加、勉強会の計画を立てる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中、鍵をかけることはないが、玄関の開閉時にチャイムが鳴るよう設置している。しかし、入所者一人一人の行動・言動に意識を持ち見守りを行い職員間の声かけで主に対応している。		・利用者の行動を自由にし、ストレスがたまらない環境作りに配慮する。 ・居室は、個人の自由で鍵をかけるなど行っており、職員が閉めることがない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜共に職員は入所者の様子を把握するよう努めている。日中、台所・フロアと職員が分かれ配置しており全体を見守っている。・夜間は、巡回を数時間毎に行い状態を確認している。		・現状を維持し、安全確認を怠らないよう配慮する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・キッチン内の刃物類や危険をとまなうものは、指定の場所に管理保管を行っている。 ・内服薬は、入所者の目につきにくく、手が届きづらい場所へ保管管理している。		・今まで以上に注意の必要な物品の保管管理をし、危険を防ぐ取り組みを行う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・消防訓練は、職員全員参加。 ・ヒヤリハットや事故報告書の徹底記載。 ・事故が起きた際、すぐに家族へ報告を行っている。 ・事故後には、必ずカンファレンスを行っている。 ・マニュアルを作成し、周知徹底している。	○	・事故防止の知識を学び共有、徹底していく。そのための勉強会を企画し、実施していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・マニュアルを作成し、周知している。 ・すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を受けていないので実施できるようにしていきたい。	○	・救急救命法などの訓練、学習を行う。急変や事故に対応できるよう、知識を学び身につける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年一度、事業所のデイサービスと合同の消防訓練を行っている。 ・消火器の使い方の体験、実習を行った。 ・パンフレットを配りながら、地域の方へ協力願いを行った。	○	・同様に同事業所との消防訓練を行っていく。 ・運営推進会議などで、地域へ協力を呼びかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・自由な外出にリスクがある利用者があるが本人の精神的安定を図るため、また、他入居者への悪影響を防ぐためにも外出を制限しない支援を検討してみたいと家族へ相談を行った。現在、家族間での話し合いをしていただいている。	○	・利用者の安全かつ抑圧感のない自由な暮らしを支援していく。 ・運営推進会議、家族会の中で十分に話し合う機会を作る。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・食欲や顔色、普段と異なった様子が見られた場合は、バイタル測定を行いきちんと記録をつけている。また、週に一回訪問看護があり常に相談、アドバイスを受け、必要に応じて医療受診を行っている。		・利用者の状態の変化に早急に気付くためには、日頃から関わり、利用者の状態を全職員で把握する為に申し送りノート活用。職員は、必ず読んでから勤務にはいるようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・病院受診の際には、毎回処方箋をカルテに綴り、内容を把握できるようにしている。 ・薬の変更が合った場合には、すぐに分かるように記入している。 ・服薬時には、本人に手渡す、口の中に入れる、コップの中の白湯に入れて溶かす、砕いて渡す等一人一人にあった対応をしている。		・病院受診は、家族対応としているので、内服の件に関しても家族との連携をとり行っている。 ・状態の変化があったときは、家族の了承を得て病院に立ち合っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・週に1～2回食事に芋を取り入れたり、バランスの良い食事を心掛けている。 ・毎朝体操をおこなっている。 ・天候の良い日は、散歩の支援が出来るように心掛けている。		・食事の工夫を行っても頑固な便秘の方には、本人の状態を見て主治医に相談して便秘薬を使用している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後歯磨きの声かけを行い、その日の状態に応じて見守りや介助を行っている。	○	・口腔ケアの重要性を全職員が理解できるよう、ホーム内の研修を計画する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量チェック、食事内容(メニュー)の記録を毎日行っている。当法人の管理栄養士を招いてアドバイスをいただいたこともあり、いつでも相談できる環境である。		・今後も管理栄養士を含めての勉強会を調整していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症についての勉強会を開き予防対策に努めている。 ・利用者、職員共にインフルエンザの予防接種を全員が受けている。 ・マニュアルを作成し、周知している。	○	・感染症についてのマニュアルを全職員で取り組み、定期的に勉強会が行えるよう企画していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用管理に努めている	・購入した食材は、すぐに冷凍保存し、鮮度を保っている。 ・毎日、あるいは2~3日に一回買い物に出かけている。出来る限り野菜は八百屋、魚は鮮魚市場にて購入し、鮮度を重視している。 ・ふきんを漂白したり、まな板の漂白も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・明るい雰囲気になるよう玄関の壁には、色チリ紙で作成した桜の木や折り紙で折られた小鳥達で彩っている。 ・来客者、利用者、家族がすぐに腰掛け一息出来るよう、玄関のすぐ横にソファを設置している。		・玄関の横に置かれたソファで歩き疲れた利用者の休憩場所にもなっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングには、季節にあった飾り付けをおこなっている。 ・利用者が散歩がてら道ばたで積んできた草花を入所者全員が集まる食堂に飾っている。 ・夕食後は、リビングでほとんどの利用者がソファに座りテレビを観てゆったりと過ごしている。		・これからは、散歩の途中で積んできた草花や職員が持ってきた草花を利用者自身で生け花にさせてみたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングには、ソファやテーブルを置き、利用者同士がコミュニケーションを図れるようスペースを作っている。 ・以前、廊下にもソファを設置していたが転倒の恐れがあったため撤去した。		・ある方は、居室の区切られた空間が苦手なため夜間寝ないことが多かった。リビングの一角をカーテンで仕切りベットを置く事でぐっすり休まれおちついていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・寝具のシーツや毛布は、利用者が使い慣れた物を持ち込んでいただいている。 ・家族の写真や思い出の品々、家具、仏壇など一人一人が大事にしてきた物を部屋へ持ち込んでいただき、居心地の良さを重要に配慮している。		・今後も継続して行っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・1日に数回は窓を開け、換気を行っている。 ・トイレは、換気扇・消臭剤を使用し、また、おむつを処理する際新聞紙に包みビニール袋に入れ臭いがこもらないように留意している。 ・冷暖房を使用する際は、外気温との差が極端に無いように留意している。		・今後も継続して行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ・玄関・浴室・廊下などに手すりを取り付け、安全に行動できるように配慮している。 ・利用者の安全を考え、コンロは、火を使わないIHヒーターにしている。 ・広い空間は、手すりが無いためテーブルやソファなどの配置を工夫し、利用者本人が自ら移動できるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・食事を入れる食器は、本人にあった物を選び配膳するようにしている。 ・排泄パターンを把握し、事前に声かけ・誘導を行い排泄がスムーズにできるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関の脇にプランターがあり、ときどき利用者が水かけをおこなっている。あまり手入れ出来ていないのが現状である。 ・当ホームには、庭はないが周辺に散歩コースがあり、時々その草刈りやごみ拾いをおこなっている。	○	・ベランダで、プランターでも出来る野菜作りを準備、検討している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム 小禄)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム小禄は、利用者の尊厳を重視しその人らしく住み慣れた地域で、安全で安心した暮らしを支援していくことを、理念の柱に職員一丸となり楽しく介護をしています。ホームの目の前に小さな川が流れ(きれいと言えるほどではないのですが)川沿いを散歩コースにしています。天気の良い日は利用者も一緒に散歩コースのゴミ拾い、草刈りに精がでます。

グループホーム小禄は立ち上げてまだ1年ですが職員はやりたい事がいっぱいです。あせらずゆっくりと利用者と一緒にひとつひとつやっていたらと考えています。現在107歳の方のために終末ケアの準備をすすめています。家族の思いをお聞きしたところ思いが一緒でした。これからは家族、訪問看護、主治医とのチームを組み穏かな生活のなかで家族と共に最期の時を過せるよう支援していきたいと考えています。

記入日:平成20年3月26日